

## 非正規雇用と企業の生産性

頭 士 奈加子

### 目 次

- |              |         |
|--------------|---------|
| 1. イントロダクション | 4. 検証結果 |
| 2. 仮説        | 5. 結論   |
| 3. データと変数    |         |

本稿では、非正規雇用と生産性との間の関係について、臨時従業員比率に着目して検証している。臨時従業員比率と生産性について懸念される逆因果関係に対処した検証の結果、臨時従業員比率が高いほど企業の生産性が高いこと、この傾向は労働生産性やROA、生産性の変化率についても確認でき、また、キャッシュフローのリスクが高い場合および倒産リスクが高い場合により顕著となることが分かった。本稿の結果は、非正規雇用の利用により、企業が事業の変動に対して雇用調整を柔軟に行えることで生産性を高めるという考え方と整合的である。

### 1. イントロダクション

日本の特徴的な雇用慣行の一つは、長期雇用であるといわれてきた。長期雇用は、しばしば終身雇用とも称される。企業にとって、長期雇用は、固定的にかかる人件費を増やし、労働調整を難しくさせる。しかしながら、企業は需要の変動に対して供給量を調整する必要がある。その点で臨時的に雇える労働力は有用である。実際、今日では、雇用形態は多様化し、企業はパートタイマーや派遣労働者、契約社員などいろいろな雇用形態を利用している。これらの雇用形態では、必ずし

も長期雇用とはならない。一般的に、長期雇用やフルタイム、直接雇用といった特徴を持つ雇用形態は正規雇用と呼ばれ、こうした特徴を持たない臨時的な雇用形態は非正規雇用と呼ばれることが多い。非正規雇用の従業員は、長期安定的な雇用が保障されないことで、企業特長的な人的資本への投資をするインセンティブを多く持たないだろう。このように、非正規雇用の利用が企業の生産性に及ぼす影響には、ポジティブな影響とネガティブな影響があり得る。非正規雇用の利用と企業の生産性に関する先行研究では、ポジティブな影響 (Künn-Nelen *et al.* [2013]、Garnero *et*



頭士 奈加子 (づし なかこ)

公益財団法人日本証券経済研究所 研究員。2020年一橋大学大学院国際企業戦略研究科金融戦略・経営財務コース博士後期課程修了。2002年株式会社日立製作所入社。2019年10月より現職。